

春風切り3600人快走



発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
© 北海道新聞社 2010

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

道新スポーツ

第23回春一番伊達ハーフマラソン

大声援を受けゴール



だて歴史の杜総合公園をスタートするハーフマラソン参加者

【伊達】道内マラソンシーズンの先駆け、「第23回春一番伊達ハーフマラソン」(春の合宿まつり実行委、北海道新聞社主催)が18日、伊達市のだて歴史の杜総合公園を発着点に繰り広げられ、ハーフマラソン一般男子は藤井翔太選手(札幌市)が1時間09分58秒で、同女子は片山志保選手(旭川市)が1時間21分23秒で、春一番の栄冠をつかんだ。

今季道内初のレースは同時開催の全道小学生駅伝も含め、20種目に3603人が申し込み。参加数は大会史上最多となった。札幌市(1329人)をはじめ室蘭市(295人)、地元伊達市(180人)など道内各地からの参加で、年々道民に定着しつつある。申込者の最高齢は男性が90歳、女性は75歳。

大会は札幌市の竹山直子さんが参加者を代表し、「温暖で美しい自然に恵まれた伊達を力強く走り抜くことを誓います」と選手宣誓。次いで号砲とともにハーフマラソンの約2000人がスタート。小学生駅伝、10キロ車いす、10キロ、3キロ、5キロの各組が後を追った。一団となって走るハーフマラソンの選手は、だて歴史の杜から伊達高校前を左折し、網代商店街を抜け、旧国鉄胆振線跡のサイクリングロードを経て、有珠山や昭和新山を眺めながら快走。武者太鼓の激励を受けながらゴールのだて歴史の杜総合公園とんだれ込んだ。



有珠山ろく競う健脚



伊達ハーフマラソンが行われた18日、「だて歴史の杜総合公園」の大手門前は、参加した約3600人の選手たちでにぎわった。市内はまだ肌寒さが残るが、選手たちの表情はいきいきと輝き、さわやかに駆け抜けていった。

